

2025 年度 一般入学試験 問題

国語

(2月13日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は18ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
----	-----	-----	-----	-----	-----

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

未来は自分で創るもの

私は、ずっと人間と関わるロボットの研究をしてきた。特にこの二〇年は、人間理解を目的に人間と関わるロボットの研究に取り組んできた。この人間と関わるロボットの研究を目的に持ったのは、人生の最初からではない。

人生において夢や目的を持つことは大事だが、その夢や目的は、^Aどんな発展していく必要がある。小さいころの夢は、不十分な情報をもとに、不十分な能力を前提に創られたものがほとんどだろう。だから、当然成長して、情報が増え、能力が高まれば、持てる夢も変わってくる。

私は研究者になった後でも、自分が未来においてやるべきことに確信を持てずにいた。未来には、ロボット社会は来るように思えるのだけれど、本当に来るのだろうかと常に思い悩んでいた。

(＊中略) そうしたときに、パソコンの父と呼ばれるアラン・ケイ氏と話す機会があり、未来においてロボット社会は来ると思うかどうかを聞いた。アランは「君はクリエイティブな人間だろ。だったら未来は自分で実現するものだ。」^Xと言った。こう言われて、それまでモヤモヤ

としていた未来がはっきりと見えたような気がした。それ以来私は講演の中で、ロボットと人間が共生する「ロボット社会」を実現すると自信を持って言うようになった。

^B未来は予測するものではなく、自分で創るもの。そう考えれば、自分の人生の見通しははるかによくなる。不確かな未来のことを考えて思い悩むのではなく、自分で創りたい未来を思い描くだけでいい。

ロボットを通して人間を考える

自分が思い描いた未来である「ロボット社会」を実現して、何をしたいのか。単にロボットがたくさん活躍する社会を創りたいのか。そうではなく、私が創りたいロボット社会とは、ロボットとの関わりを通して人間について多くを学べる社会である。

人間と関わるロボットを開発するには、^{Y1}について深い知識が必要になる。そして開発したロボットと人間との関わりを観察すれば、その

^{Y2}がどれほど ^{Y3}に近づいたか知ることができる。

人間は、人間と関わるための脳の機能や体を持っている。ゆえに、人間と関わるロボットを実現するというのは、人間そのものをロボットの技術で創り上げることでもある。

このように、私が創りたいロボット社会を実現するためには、人間について深く理解する必要がある、人間に対する深い興味が必要ならなければならない。思い返せば、私自身、小さいころから気にかけていたのは、自分とは何か、人間とは何かという問題である。小学五年生くらいのときに、大人に「人の気持ちを考えなさい」と言われたことがある。そう言われて、何をどうしていいか解^わからず、逆にその意味を知っている大人はすぐく偉いと思った。

「気持ち」とは何か、具体的にどんなものを指すのか。「考える」とは、どうすることなのか。単にキ^アオクすることでも、計算することでもないはずだ。

むろん、この小学五年生の疑問に対する答えは今も得られていない。「気持ち」や「考える」というものは、非常に理解が難しいことである。そしてもっと難しいのが「人」の理解である。「人の気持ちを考えなさい」とは何をどうすることなのか、今でも疑問のままに残っている。

しかし、この疑問こそが人間にとって最も重要な疑問なのだと思う。夢とは何か、生きる目的とは何か、そういったことがはつきりしないままに、目の前のことに組みながら生きてきた。ただ、小学五年生以来、人間や自分に関する様々な疑問が^イワき起こっては、生活に紛れて消えることを繰り返していた。そして、そうした疑問が研究を続ける中で、徐々に明確になり、自分の解くべき問題、創るべき社会のイメージが明らかになった。

私が創りたい社会とは、自分を映し出し、人間とは何かを考えるヒントをたくさん与えてくれるロボットが身の周りで活動する社会、ロボットを通して自分たち人間の存在について深く考えることができる社会である。

ただ、この人間理解には^Eゴールがない。人間理解はほとんどの科学技術の目的であるように、最も難しく、最も重要な問題であるとともに、質^{たち}が悪いのはこの問題の答えは常に変化するということである。

人間の「定義」は科学技術の進歩とともに、少しずつ変化してきた。今後も科学技術の進歩や社会の変化に伴い、その「定義」は変わっていく。それゆえ、理解したと思っても次の瞬間変化し、また疑問が^ウフクラむ。それでも私たち人間は、人間理解をやめないだろうと思う。

(石黒浩『ロボットと人間 人とは何か』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。)

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが2、ウが3。

ア キオク

- ① 心のオクソコにある思い
- ② 勝手なオクソクをひかえる
- ③ 後輩にオクレをとる
- ④ オクガイの空気を入れる
- ⑤ 人口一オク人

イ ワク

- ① 水のフツテンは摂氏百度である
- ② フンスイのある公園
- ③ 孤軍フントウの戦い
- ④ 応援団のカンセイがあがる
- ⑤ 物価がコウトウする

ウ フクラむ

- ① 販路をカクダイする
- ② 湾のマンチョウ時間
- ③ 予算がボウチヨウする
- ④ 牛乳をハッコウさせる
- ⑤ サンマがホウリヨウだ

問二 傍線部A「夢や目的は、どんどん発展していく必要がある」とあるが、そのように筆者が考えている理由として最も適切なものを、次の①～⑤

のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、4。

- ① 人間は、成長するにしたがってより複雑な人間関係の中に身を置くことになるので、利他的な夢や目的にすべきだから。
- ② 将来、人間とロボットが深くかわかる社会が実現するので、ロボットの発達に応じて夢や目的も発展させるべきだから。
- ③ 人間の考えは常に変化するもので、以前に決めた夢や目的を忘れないようにする必要があるから。
- ④ 成長するにしたがって自分の持っている情報が増え、能力が高まるので、それに応じた夢や目的にすべきだから。
- ⑤ 夢や目的は自分で創り出すもので、自分では自信が持てなくなることもあるが、自分を信じるのが大切だから。

問三 空欄 X に入る文として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、5。

- (a) 人に話すものではない。
- (b) 人に聞くものではない。
- (c) ロボットが知っているはずだ。
- (d) ロボット社会は必ず来る。
- (e) ロボットは未来を創れない。

問四 傍線部B「未来は予測するのではなく、自分で創るもの」ということを筆者の考えに即して説明した文として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、6。

- (a) ある一定のかたちやビジョンがある未来は予測しやすく、主観的な想像力による未来は予測できない。
- (b) 未来は確かに存在するものではなく、それを誰も知ることはできない。
- (c) 未来は客観的で分析的なものではなく、かたちのない未知のものなのだ。
- (d) ロボットに関係する未来がどのようなものになるのかは、人間に関係する未来から想定できる。
- (e) 予測される未来は、ロボット中心の無機質で人間不在のものではなく、人間が介在するあたかいものとなるだろう。

問五 空欄 Y1、Y2、Y3 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、7。

- (a) Y1が「社会」、Y2が「ロボット」、Y3が「人間」
- (b) Y1が「ロボット」、Y2が「ロボット」、Y3が「人間」
- (c) Y1が「ロボット」、Y2が「人間」、Y3が「ロボット」
- (d) Y1が「人間」、Y2が「人間」、Y3が「ロボット」
- (e) Y1が「人間」、Y2が「ロボット」、Y3が「人間」

問六

傍線部C「その意味を知っている大人はすごく偉いと思った」とあるが、この表現からわかる筆者の思いとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、8。

- (a) 自分では何をどうしていいかわからないことを聞く大人たちへの怒り
- (b) 人の気持ちを考えるために何をどうしていいかわかる大人にはなれないというあきらめ
- (c) 絶対にわかるはずのない人の気持ちをわかったような気になっている大人たちへの軽蔑
- (d) 大人たちが人の気持ちを考えることの意味を知っていることへの敬意
- (e) 自分にわからないことを本当に大人たちが知っているのだろうかという疑い

問七

傍線部D「この疑問こそが人間にとって最も重要な疑問なのだ」とあるが、そのように筆者が考える理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、9。

- (a) 疑問には必ず答えがあり、その答えはいつか絶対見つかることこそが重要だから。
- (b) 答えのない疑問を持ち続けることでその疑問の意味が徐々に明らかになり、自分の夢や目的に近づいていけるから。
- (c) 筆者はいろいろな疑問の答えを人に聞きながら、それを道しるべとしてこれまで生きてきたから。
- (d) 疑問には答えを見つける必要はなく、自分には疑問に答えを見つけられないという自覚が大切だから。
- (e) 疑問を次々と持つても、生活に紛れて疑問そのものを忘れてばかりだったことを反省しているから。

問八

傍線部E「人間理解にはゴールがない」ということを筆者の考えに即して説明した文として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、10。

- (a) 人間とは何かという問いに対する答えは神の領域の問題で、人間には計り知れない。
- (b) 人間の考え方や行動は多種多様で、自分の知らない考え方や行動が常に存在する。
- (c) 科学技術の進歩に伴い、人間とは何かという問いに対する答えが時代によって異なる。
- (d) 将来必ずやってくるロボット社会においては、科学技術が人間の理解を超えたものになる。
- (e) 人の気持ちを考えることは不可能だから、いつまでたっても人間理解は不可能である。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、問一―七に答えなさい。

倫理思想の原点にあるのは、幸福への問いだった。アリストテレスは、『ニコマコス倫理学』の冒頭で、幸福こそ、私たちの全ての行いが求めているものと断言する。したがって、人間が求めている「よさ」（善さも良さも含まれる）は、幸福にほかならない。【①】どうすれば幸福になれるのか、これはアリストテレスのみならず、古代ギリシャ思想全体の基本的なテーマだったといつてよいだろう。【②】

幸福の問いは、次のようになる。【③】

どうすれば幸福になれるかを知るためには、私たちが何を求めているかを知らなければならない。【④】

さらに、私たちが何を求めているかを知るためには、私たちが何であるかを知らなければならない。【⑤】たとえば、オオカミが何を求めているか、オオカミの幸福を考えてみよう。オオカミの求めているものを知るためには、オオカミの生態を知る必要がある。オオカミは、そのテリトリーが数百キロに及ぶ非常に広い範囲を群れて徘徊する。

X

広い活動範囲と、鹿のような大型の獲物の存在、そして群れでの生活、こうしたオオカミの生態によってオオカミの求めているものが決まる。オオカミの生活を知れば、動物園の小さな檻や、群れから切り離され、一匹あるいは数匹で過ごす孤立した生活がオオカミにとって如何に残酷かわかるだろう。

私が子供だった頃――現在の動物園はかなり改善が進んでいるようだが――動物園でオオカミが小さな檻の中を行ったり来たりするのを見たのを覚えていいる。こんなにせわしなく行ったり来たりするものも、広い土地を疾走したいのだろうと思った。今考えると、それはストレスによって生じる病的症状、同じ行動を繰り返し出す常同症だったのではないだろうか。

人間も同様である。私たちが求めているものを知るためには、私たち人間の「生態」つまり人間本来のあり方を知らなければならない。そう古代ギリシャ人は考えた。人間にとって「よさ」は私たちが目標としている幸福にある。幸福を手に入れるには、私たちが何を求めているかを知る必要がある。何を求めているかは、そのものの本質や本性によって規定される。オオカミの求めているものはオオカミの生態により、人間の求めているものは人間の本質・本性による。すなわち、幸福とはそのものの本来のあり方や本質が実現されている充実した、生き生きとした生の展開なのである。

したがって、人間の幸福を考えるためには、人間の本性がイカンなく発揮されている生についてまず考える必要がある。こうして倫理思想は、人間の本質の問いへと接続していった。

古代ギリシャ人の倫理思想を支えた考えの道筋をまとめると、以上のようになる。現代の倫理学や倫理思想についての印象、あるいは先入観と比べ

て、そのちがいは一目リョウゼン^イだろう。私たちは、自らの生の充実のために本当は何をしたいのか、それが、するべき内容だったのであり、嫌々するべきことが倫理ではなかったのである。^{*}

もちろん、ギリシャ語でユウダイモニアあるいはエウダイモニアと呼ばれるギリシャ人の「幸福」は、現在私たちが幸福の名の下に想像するものと同じではない。人間に本性があるとして、その充実といえば聞こえはいいが、これは結構大変で頑張らなければならない「幸福」のようだ。

また、私たちは幸福によって、なんらか、幸福を感じている状態を形容したくなるが、アリストテレスは、自らの能力を発揮している活動を考えていた。オオカミが一所懸命野を疾駆して、鹿を逐^おっているように、人間はその能力を、それがなんであれ発揮して、活動している。その活動の連鎖が充実した生とイメージされていたようにみえる。どうも人間本性に追いついて立っている「幸福」は息つく暇もなさそう^Bで、たいへんつらそうにもみえる。もつとも、自らのもっている能力を発揮できない生活は、これまた不幸な気がするから、

Y

 私たちの幸福と無縁とはいえない。とりあえず、今はこの問題はおいておこう。

幸福が人間本性の發揮に基づくとして、それでは、古代ギリシャ人は何を人間本来のあり方、人間の本性と考えたのか。まず考えられていたのは共同生活だった。アリストテレスの言葉で言えば、人間は社会的動物であり、共同で生を営む。この点で人間はオオカミやアリそしてサルや犬と近く、孤独に暮らす猫やカメと遠い。現代風に言えば、共生が人間の本質的な営みである。

プラトンの描くソクラテスはその好例だ。ソクラテスは如何に当時のアテネのソフィストたちに反対し、孤立しても、決してアテネのアゴラ（広場）から離れず、彼らとの対話^Cと論争をあきらめない。ソクラテスは、俗世から離れた隠遁^{いんとん}を理想とした宗教者や仙人、ニーチェの描くツァラトゥストラのように、一時であれ山に籠^こもる生活など思いもなかった。アリストテレスにとって、共生は人間生活の重要な契機だった。彼は『ニコマコス倫理学』の多くの部分をさいて友愛（フィリア）について検討している。また、交際や会話で、一緒にいて人に心地よさをあたえる徳やユーモアの徳について語っているのである。

（村松聡『つなわたりの倫理学 相対主義と普遍主義を超えて』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

11、イが 12。

ア イ|カン

- | | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|-----------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| イ デンシ組換え食品 | 立ちイ チを決める | 両者のソウイ 点 | 心臓のイ シヨク手術 | 人事イ ドウの発表 |

イ リ|ヨウゼン

- | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ケイリ ヨウなパソコン | 会社のドウリ ヨウ | メイリ ヨウな発音 | キュウリ ヨウ地帯 | 試合シユウリ ヨウの笛 |

問二 次の文は、本文の【①】～【⑤】のどこに入るか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答

番号は、 13。

幸せの青い鳥を手に入れようとしても、青い鳥がなにかを知らなければ、どこを探すべきか、何を探すべきかわからない。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ア | イ | ウ | エ | オ |

問三 空欄

には、次の①～④の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

14。

- ① その途中、群れで狩りをするが、二〇キログラムのおとなのオオカミは一週間におよそ五〇キログラムの肉を必要とする。
- ② 群れはアルファオオカミと呼ばれるボスに率いられて、階層社会をなしている。
- ③ 大型の草食獣の生息がオオカミの生存にとって必須条件となる。
- ④ リスやウサギのような小さな獲物ではおやつ程度にしかない。

(a)	①	↓	④	↓	②	↓	③
(b)	②	↓	①	↓	④	↓	③
(c)	③	↓	②	↓	①	↓	④
(d)	③	↓	④	↓	②	↓	①
(e)	④	↓	②	↓	①	↓	③

問四

傍線部A「生き生きとした生の展開」の説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

15。

- (a) オオカミにとつての広野における鹿の捕食のように、檻から解放された生活そのもの
- (b) 人間が求めている「よさ」が手に入り、幸福を継続的に感じることができている様子
- (c) 人間であれ動物であれ、日常の営みのなかにそのものの本質があらわれている状態
- (d) 自らが手に入れたと思うものが何かが分かりながら生きている過程
- (e) 何を求めているかが、そのものの本質や本性によって自覚できることへの喜び

問五 傍線部B「たいへんつらそう」にみえる理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答

番号は、16。

- (a) 幸福が出来事によって生じる結果ではなく、それを求める過程にあるため。
- (b) 幸福を得るためには、オオカミのように懸命に獲物を追わなければならないため。
- (c) 幸福は優雅で穏やかな状態として捉えることが望ましいとされていたため。
- (d) 「よさ」を追い求めた先に、幸福があると考えられるため。
- (e) 古代ギリシャの生活様式が現代の私たちにはそぐわないため。

問六 空欄Yに入る語として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、17。

- (a) ひとまず
- (b) なおさら
- (c) とにかく
- (d) あながち
- (e) おおよそ

問七 傍線部C「対話と論争をあきらめない」のはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、18。

- (a) 他者がいる場に身を置く行為が、ソクラテスにとっての本性の実現であったため。
- (b) 対話と論争が、ソクラテスが幸福とは何かを考える最も有効な手段であったため。
- (c) 孤立し俗世から離れる生き方では、幸福に近づくことはできないと考えていたため。
- (d) 共同で生を営む社会を実現するために、対話と論争を通してアゴラを形成しようとしたため。
- (e) 人に心地よさをあたえる徳やユーモアの徳を備えていたことにより、共生の営みが実現したため。

メ モ

試験問題は次に続く。

三

の問題については、著作者より作品の二次使用について、許諾が下りていないため掲載していません。

